

村上市議会議長 板垣 一徳 様

村上市議会経済建設常任委員会
副委員長 小杉 和也 ㊟

行政視察報告書

下記のとおり、経済建設常任委員会の閉会中継続調査（行政視察）を行ったので、その結果を報告します。

- 1 期間 平成25年11月11日（月）～11月13日（水）
- 2 視察地 沖縄県読谷村、沖縄県北谷町
- 3 参加委員氏名 川崎 健二委員長、小杉 和也副委員長、尾形 修平委員、鈴木いせ子委員
三田 敏秋委員、姫路 敏委員、大滝 国吉委員、片野 鉄雄委員
- 4 調査項目 (1) 観光・伝統産業施設及び歴史的文化遺産を活かした魅力あるまちづくりについて
(2) 水産業とマリン産業の融合による新たな事業展開と雇用創出を推進する取り組みについて
- 5 調査目的 (1) 村上市には歴史的文化遺産が多く残るが、それを活かしているとは言えず、沖縄県の歴史的文化遺産を活かして魅力あるまちづくりを行っている施設を調査し、本市における議会としての対応を探ることを目的とする。
(2) 岩船港は特定地域振興重要港湾に指定され、これまで「岩船港港湾振興ビジョン」に基づき、港のイベント広場などの整備がなされてきたが、今年度においてはマリーナ建設を含む岩船港周辺区域整備計画検討調査が行われることから、先進事例の見解を踏まえて議会としての対応を研究することを目的とする。

6 調査概要

- (1) 観光・伝統産業施設及び歴史的文化遺産を活かした魅力あるまちづくりについて
琉球村（沖縄県読谷村）

[経過]

築約200年の民家など、沖縄各地の古い建物を移築して、古き良き沖縄を再現し、琉球文化と観光施設の一体化によって琉球文化の紹介と継承に貢献しているテーマパーク。藍染め、陶芸、織物などの工芸体験教室や、エイサーや舞踊、獅子舞などの沖縄の芸能のアトラクションを開催し、沖縄伝統文化を満喫することができ、製糖工場では、水牛が砂糖車（サターグルマ）を引いてサトウキビを絞るといった昔ながらの製糖風景を復元している。伝統行事の披露を地域のお年寄りに担ってもらうことで、生涯学習や地域の活性化に寄与しており、また、この施設を



社会科の授業で訪れて、子どもたちが自分の住む地域・文化を知るための教育施設としての役割も果たしてい

る。

沖縄の生活感のある古き良き風景を再現し、琉球を体感できる形で琉球文化を観光施設と一体化することに成功し、琉球文化の紹介と伝承に貢献していることから、この施設の創業者であり経営者でもある上地三兄弟は国土交通省の観光カリスマに認定されています。



[各委員の所感]

観光振興には、どの層をターゲットにするのか、そのための戦略はどうするのかなど明確な方向性を持ち、ただの観光施設に終わらず、伝統の文化の伝承、教育などを複合的にとらえ、体験型の観光が必要だと感じた。お年寄りも自分の役割を得て、収入も入ることから、生き生きとしている姿は、福祉面にも波及している良い取り組みである。沖縄の観光施設は修学旅行の生徒が多く、学校教育の一環として地域資源を題材に歴史・産業・経済などを学習している姿が印象的であった。体験型の催しや通年観光を行うことは観光客の誘致において参考になり、旧市町村単位の垣根を越えて、数多くある地域資源を学習することの必要性も感じた。

観光施設だけに終わらせないアイデアと地域を巻き込む取り組みは、本市においても見習うところが大きいと思う。



(2) 水産業とマリン産業の融合による新たな事業展開と雇用創出を推進する取り組みについて

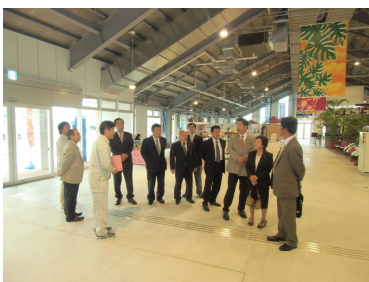
北谷町 西海岸総合整備計画（沖縄県北谷町）

[経過]

北谷町では、昭和56年の米軍基地返還に伴い、西海岸総合整備計画の一環として、浜川漁港多目的施設プロジェクトを立ち上げ、フィッシュ（魚、漁業）とアリーナ（劇場）を組み合わせたフィッシュアリーナ整備事業を進め、美浜タウンリゾート



アメリカンビレッジでは、テーマ（アメリカのサンディエゴが見本）、コンセプト（安い・近い・楽しい）、業態（ショッピング・アミューズメント・宿泊）をしっかりと決めて取り組んでいるところに注目した。大型の無料駐車場も備え、平日の昼でも若者が多く活気があり、北谷町西海岸地区は、浮桟橋、水際遊歩道、海業振興センター、緑地、公園など公共施設が整い、ユニバーサルデザインによるまちづくりを進めている。平成16年に完成した美浜タウンリゾートアメリカンビレッジでは、来客者数が830万人を超え、現在14社、80あまりの企業・テナントが立地し、年間販売額は約200億円と推計され、約3000人の雇用が創出されており、県内外からも注目されている取り組みをしていた。



[各委員の所感]

明確なコンセプトのもとに開発を進め、企業誘致にはセールスが大切であるとの考えに基づき、企業誘致は会社訪問を90社のべ350回行ったことから、企業を誘致することにより雇用を創出している。来年度には大手のホテルも稼働することから、ますます雇用が増え、北谷町の人口は増加すると考えられる。ハード面では、企業誘致にも使えそうな用地に大型無料駐車場を配置するなど、人が集まり

やすい環境づくりも重要だと感じた。

まちの将来像を明確に住民に説明し100年後を想定した開発基本方針を打ち出し、ユニバーサルデザイン手法により、町民や多くの人たちの意見を取り入れてガイドラインを策定したことは、村上市にとって大変参考になるものであった。若い職員がプロジェクトの中心となり、自分たちの行った事業に目を輝かせて説明してくれたことには感動した。

再開発には、どういった施設を整備すべきかなど、明確な方向性を出すトップの考え方と、軍用地の返還地という負のイメージを逆手に取ること、企業誘致により民間活力を活かすなど多くを学んだ。村上市も岩船港、瀬波海岸、山北漁港など、海のある市として一体となった観光開発を考える時がきたと思うので、今後の取り組みはしっかりとしたコンセプト、計画を持ち官民協働で進めていくべきだと感じた。

